

詳細分布調査報告

# 三刀屋町の遺跡Ⅲ

鍋山地区

1990年3月

島根県三刀屋町教育委員会



三刀屋町の遺跡III 正誤表

頁	行	誤	正
例言 P 2	6	妹尾 正	妹尾 治
博図目次	1 6	方寺砦跡	法寺砦跡
1	2 8	妹尾 正	妹尾 治
1	2 8	大田	太田
1	2 9	山根	御城山
1	3 5	方寺砦跡	法寺砦跡
1	3 8	方寺砦跡	法寺砦跡
1 3	3	方寺砦跡	法寺砦跡
1 3	4 8	2 0 5 方寺砦跡	2 0 5 法寺砦跡
1 3	博図	第 1 6 図 方寺砦跡見取図	第 1 6 図 法寺砦跡見取図
1 3	8	方寺砦跡	法寺砦跡

## 序

本町は昭和62年度より文化庁並びに県の補助を得て、町内遺跡詳細分布調査を実施しているが、本年度は残された鍋山地区の調査を試みた。

この地区は、古刹密教寺院禅定寺を有し、又、昭和55年に行われた圃場整備事業あるいは昭和57年5月農道新設工事によって発見された縄文から古墳時代にかけての遺跡、さらに昭和60年度国庫補助事業として実施した殿河内遺跡調査等により、古くから人々が住みつき、開けていた地区として知られていた。ただ、この地区は町内においては比較的に遺跡が少なかったわけだが、このたびの詳細分布調査によって30を越える遺跡が新たに発見され、この調査の成果となった。

これまでの調査によつていえることは、古墳時代の遺跡は少ないが戦国期の山城を中心とした遺跡の多いことである。それはこの地が三刀屋氏と多賀山氏の境界上にあることと関係しているように思われる。又、禅定寺が平田の鶴淵寺との関係をもつといわれることから、平田、出雲の密教ルートも無視できない。これらについては、次年度においてさらに精査が必要と思われる。

この調査の実施に伴つて、当地区住民の文化財に対する関心の高まりを随所に感ずることができたが、これを契機に愛護思想の一層の普及に努めたいと考える。

終りに、県文化課並びに蓮岡法暉、杉原清一両氏による懇切丁寧なご指導と、この調査の実施にご協力をいただいた関係各位に深く感謝を申し上げ、刊行のご挨拶としたい。

平成2年3月

三刀屋町教育委員会教育長

若槻喜吉

## 例　　言

1. 本書は三刀屋町教育委員会が、平成元年度国庫及び県費の補助を受けて実施した三刀屋町鍋山地区の遺跡詳細分布報告書である。

2. 調査体制は以下の通りである。

調査主体者 三刀屋町教育委員会

　　教育長 若槻喜吉

調査指導者 蓬岡法暉（島根県文化財保護指導委員）

　　杉原清一（　　　　タ　　　　）

　　鳥谷芳雄（島根県教育委員会文化課主事）

調　　査　　員 大谷祐司（三刀屋町文化財専門員）

事　　務　　局 谷戸邦夫（三刀屋町教育委員会教育次長）

　　太田昌人（　　　タ　　　　社会教育係長）

　　稻田和久（　　　タ　　　　主任主事）

3. 調査成果は本書において分布図及び一覧表とし、大部分の遺跡については概略と岡面をのせたほか、遺跡カードを作製して遺跡台帳とし、三刀屋町教育委員会と島根県教育委員会に保管する。本書の遺跡の概況については今回の調査が地表面観察によるものであり、過去に発掘調査をされた遺跡以外は私見をはきむと誤解をまねく恐れがあるのでできるだけ表面観察による客観的事実と文献記載事項、そして口碑伝承だけを記述した。なお遺跡番号は『島根県遺跡地図』I（1988年）及び『三刀屋町の遺跡』II（1989年）を踏襲した。

4. 本書および調査には主に「三刀屋町管内図」5千分の1を使用した。方位は磁北を示す。

5. 本書に記載した地名は、『三刀屋城跡調査報告書』II（1984年）に収録した全町域悉皆調査表のほか地元伝承通称名を用いた。遺跡名もほぼ同様の方法でおこなったが、このほか屋号も用いた。

6. 現存する出土遺物については、できるだけ保管者名を表記した。

7. 三刀屋町遺跡詳細分布調査は本年が完成年度であったが、古利押定寺のある押定山には「人皇四十五代聖武天皇勅願の……(中略)……七堂伽藍坊宇四十二箇院の古利なり、依之領金坊、泉井坊、古覺坊、柳樹坊、奥野坊、清門院等の坊跡今に有之候。」（『鍋山村誌』第一號）を裏づけるように平坦面が多数残る。またこの山を取り囲むように山城が築かれていたことが今回実施した部分的踏査によって分かった。このように押定寺は山

岳寺院に城郭の機能を兼ね備えていたことが分かったが、その全様を把握するにはかなりの日数が必要であり、場合によっては試掘も実施せねばならないので来年度あらためて調査を実施することにした。なお調査範囲は三刀屋町全図に赤で囲った。また部分的踏査で分かった山城（全様は不明）は位置だけを分布図におとした。

8. 調査にあたっては、江角萬市、須山彦一、渡部善一、渡部 正、川上 伝、犬喰義富、飯塚一郎、妹尾 正、森田 博、矢田重義、加藤陽一、高橋康郎、柿本 操、柿本正利の諸氏に同行協力、助言を賜った。また地元鍋山地区の皆さんには多大なる協力を賜った。記して謝意を表する。
9. 本文は調査指導員と県教委文化課の助言を得て大谷が執筆した。遺物整理及び作図、製図、写真撮影は県教委文化課の協力を得て主に大谷が行ない、今岡クニ子氏の協力を得た。
10. 本書の分布図と一覧表に掲載した遺跡の大部分は、分布調査による地表面観察によって発見したものであり、埋蔵文化財はその性格上分布調査によってすべて網羅することは不可能である。したがって将来、空白地にも埋蔵文化財が発見される可能性がある。

## 目 次

序

例言

遺跡分布図

遺跡一覧表	1
1. 遺跡の概況	3
2. 各地域の概況と主な遺跡の概況	3
大字甲坊	3
大字根波別所	5
大字殿河内	7
大字乙加宮	16

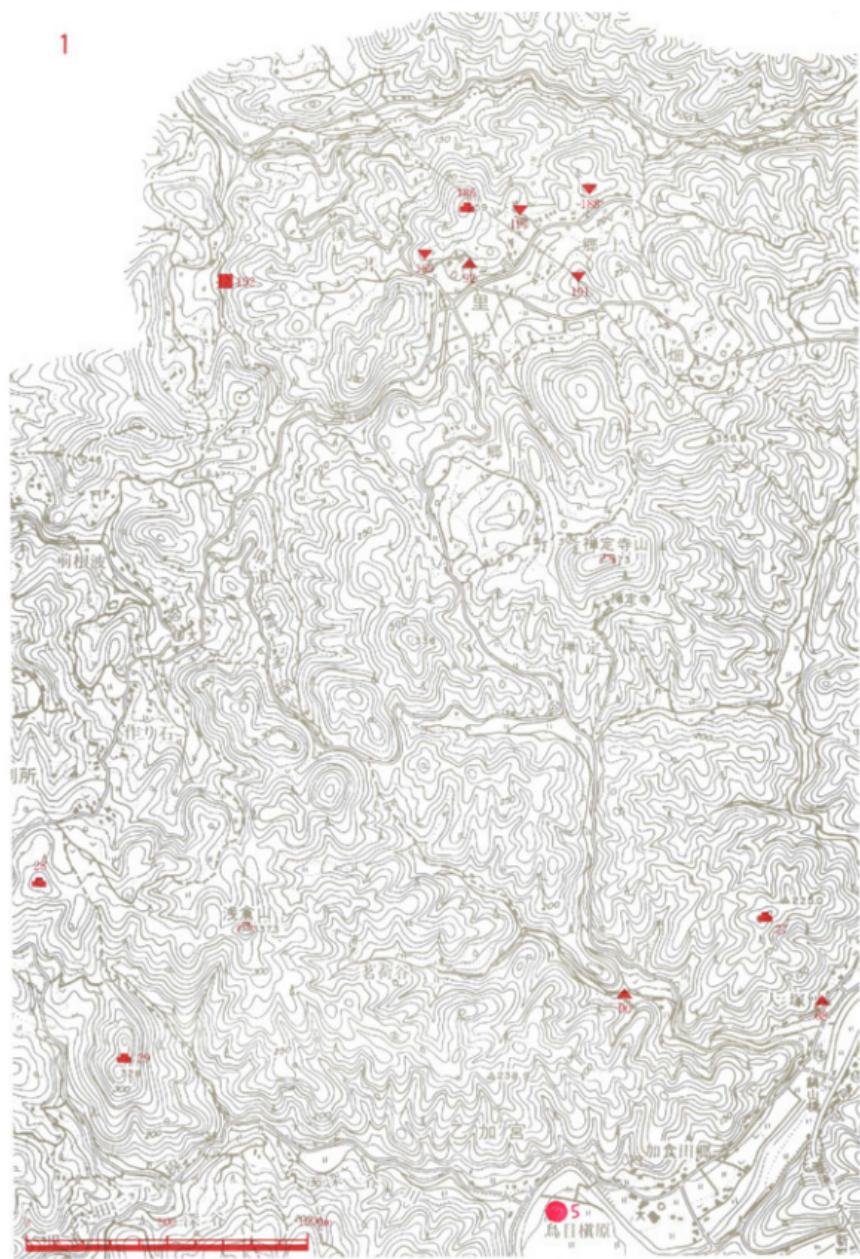
## 挿図目次

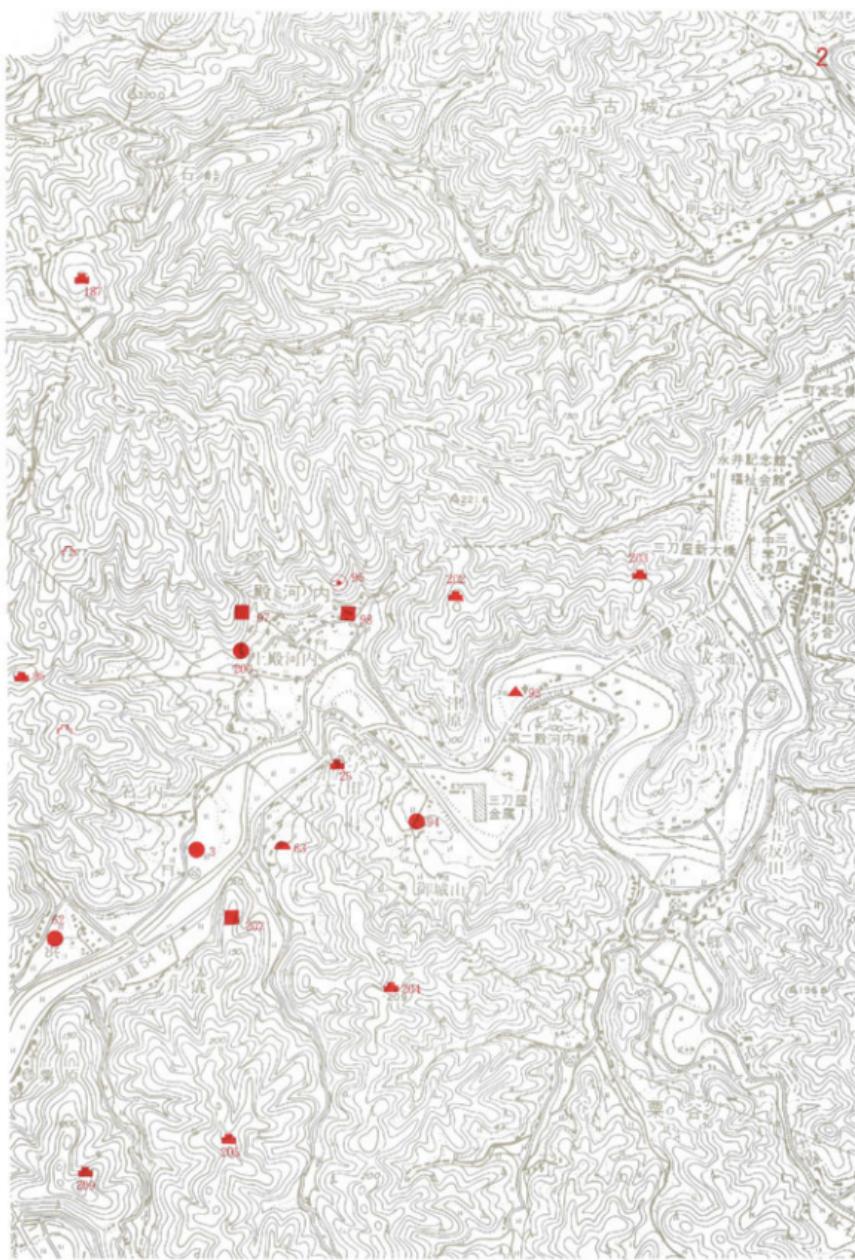
第1図	高城城跡見取図	3
第2図	向屋敷砦跡見取図	4
第3図	松喰古墓群五輪塔	4
第4図	茶臼山城跡見取図	5
第5図	赤日谷跡及び佐右衛門居敷跡	6
第6図	道の上五輪塔	6
第7図	太田横穴群1号穴	7
第8図	太田横穴群2号穴	7
第9図	太田横穴群出土遺物(1)	8
第10図	太田横穴群出土遺物(2)	8
第11図	殿河内奥城見取図	8
第12図	御城山城跡測量図	9~10
第13図	下殿河内城跡見取図	11
第14図	大横山城跡見取図	12
第15図	高丸砦跡見取図	13
第16図	方寺砦跡見取図	13
第17図	陣高丸城跡見取図	14
第18図	正福寺跡石燈	15
第19図	清水荒神塚遺跡実測図	15
第20図	平家城跡見取図	17
第21図	鳥目城跡見取図	18
第22図	上乙多山城跡及び休場砦跡見取図	19
第23図	本谷城跡見取図	19

# 三刀屋町全図



1







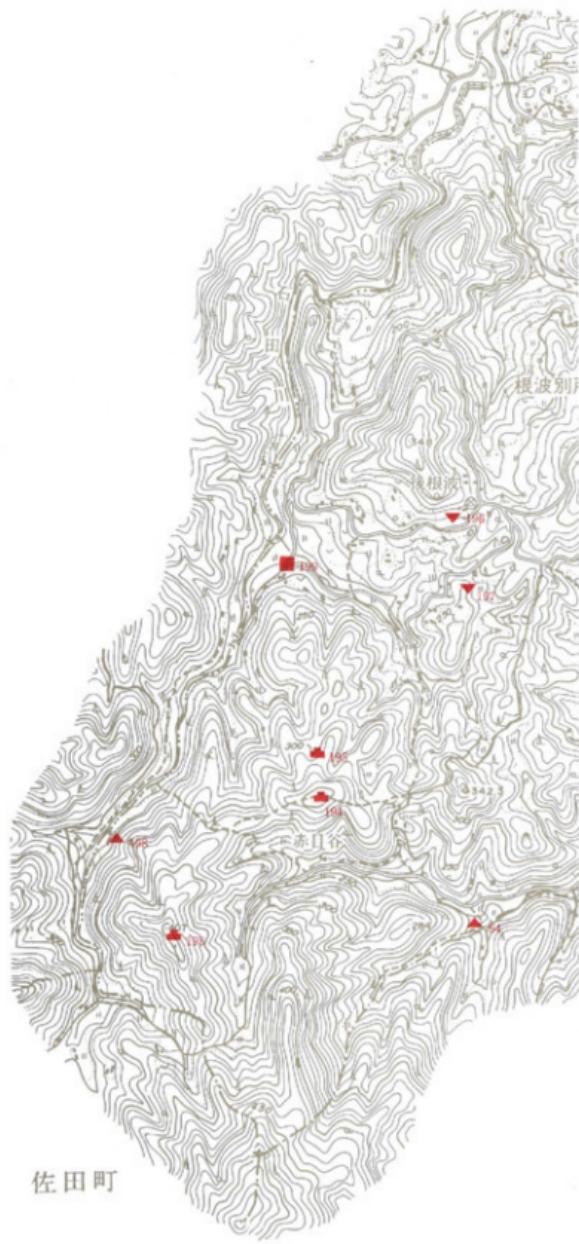
4



掛

合

町



## 遺跡一覧表

鍋山地区

### 大字里坊

遺跡番号	種別	名 称	所在地(小字)	現況	遺跡の概況	遺物保管者
186	城 壁	高 城 城 路	高 城	山 林・竹 林	山頂に郭1, (跡路)	
187	・	向 屋 敷 葩 路	烟 山	林	(200m×200m) 山頂に郭	
188	古 墓	松 喰 古 墓 群	松 喰	草 地	丘陵端, 五輪塔5以上, 宝鏡印塔2以上の石塔片	
189	・	中 古 墓 堂	山	烟・山 林	五輪塔片, 宝鏡印塔片	
190	・	若 宮 古 墓	宮	烟	五輪塔片 地すべりで流される	
191	・	郷 上 古 墓 宮	ノ 塵		宝鏡印塔残欠	
192	寺 院 路	法 王 寺 仁 王 門 路	仁 王	草 林	法王寺(出雲市)の仁王門跡 碓石	
92	窯 路	飯 国 瓦 窯 路	中 居	水 田・烟	初窯大正始め頃 最終窯昭和33年頃 最盛期従業員10人	

### 大字根波別所

28	城 壁	茶 白 山 城 路	茶 白 山	山 林	主郭に土塁, 郭, 帯郭, 繩郭, 天然の大空堀	
193	・	奥 赤 日 谷 城 路	赤 日 谷	山 林	(300m×250m) 郭	
194	・	赤 目 谷 壁 路	赤 目 谷	山 林	(50m×40m) 郭	
195	古 墓	大 敷 古 墓 群	蛇 喰 前	竹 林	丘陵先端, 五輪塔片と宝鏡印塔片が埋設している	
197	・	道 の 上 五 輪 塔	道 の 上	墓 地	五輪塔2	
64	製鉄遺跡	思 後 尻 鈿 路	思 後 尻		鉄滓散布	
198	・	金 床 鍋 路	金 床	水 田 廃 家	鐵滓, 炉壁材片散布	
199	神 社 路	神 社 路	ノ 塚	水 田	明治24年に遷座	
195	窯 路	佐 右 衛 門 里 敷 路	佐右衛門里敷	山 林	赤目谷筋のある丘陵の北麓 30m×50m	

### 大字殿河内

200	散 布 地	上 殿 河 内 遺 路		水 田	石斧1	妹 尾 正
63	横 穴 群	大 田 横 穴 群	引 越	山 林	2穴, 須恵器, 馬具, 鉄斧	
25	城 壁	御 城 山 城 路	根		(200m×100m) 郭 堀切	
95	・	殿 河 内 奥 城 路		山 林・竹 林	(200m×100m) 郭 繩郭, 堀切	
202	・	下 殿 河 内 城 路	ソウ 谷	山 林・竹 林	(100m×50m) 郭 堀切	
203	・	大 横 山 城 路	坂 横	山 林・竹 林	(450m×100m) 郭 繩郭, 堀切	
204	・	高 丸 菩 萬 群	高 丸	山 林・竹 林	(1,500m×300m) 郭 堀切	
206	・	陸 高 丸 城 路	ノ木 谷	山 林・竹 林	(800m×500m) 郭 堀切	
205	・	方 寺 菩 萬 群	猿	山 林	(600m×300m) 郭 堀切	
97	寺 院 路	正 福 寺 路		宅 地	宝鏡印塔, 五輪塔	
98	・	永 昌 寺 路		烟	延宝年間に開基 浄土宗	
207	・	寺 路	岩	山 林	詳細不明	
96	銚出土地	清 水 荒 神 塚 造 路		山 林	埋納盤2, 鉄鍋1, 刀3, 和鏡1, 土師質 土器22, 円建3	妹 尾 忠 健

94	住居跡	殿河内遺跡		烟	獨立建物跡480m×70m、土師器、須恵器、陶磁器、土師質土器、鉄津	三刀屋町教育委員会
93	墓 路	殿河内練瓦工場墓跡		荒地	礪突1、昭和25年頃約5年間操業	
208	製鉄遺跡	札場通尾鉄路	札場通尾	宅地	鉄滓敷布	

### 大字乙加宮

3	散布地	官 内 遺 路	水	田	縄文早期～中世(100m×350m)	三刀屋町教育委員会
5	*	植 原 遺 路	水	田	縄文早期～縄文後期(150m×170m)	*
62	*	浜 遺 路	水	田	縄文早期～中世、鐵雄土器	*
4	城 燕 平 家 城 路	足 須 路	谷 山	林	(40m×10m) 丘陵頂上に小郭2	
29	*	朝 倉 山 城 路	倉	山 林・竹 林	山頂に郭2	
209	*	粟 原 城 燕 路	ケ 谷	山 林・竹 林	(500m×500m) 郭 縱切	
210	*	鳥 目 城 路	ケ 谷	山 林	(1000m×600m) 郭 縱切	
211	*	上 乙 多 田 城 路	半	山 林	(600m×200m) 郭	
212	*	休 場 燕 路	場	山 林	(150m×50m) 郭 縱切	
213	*	長 勝 寺 燕 路	谷	山 林	(200m×100m) 猿蹠をあげた伝承有	
214	*	本 谷 城 路	谷	山 林	(200m×100m) 郭	
27	*	大 塚 山 城 路	ヤ ブ	山 林	(虎口1?)	
68	製鉄遺跡	金 屋 子 鉄 路	金 屋 子	荒 地	鉄滓敷布	
70	*	こ つ て 鉄 鉄 路	西 ケ	平 水	近世 鉄滓敷布	
90	*	鉄 烟 鉄 路	鉄 烟	烟	鉄滓敷布	
215	寺 院 路	寺 屋 散 通 路	皆	平	烟 (34m×12m) 長勝寺の最初の移転場所 (近世?)	
216	*	長 勝 寺 路	寺	山 林・竹 林	中世～近世? 円通寺の末寺 鍔口出土?	
217	*	客 戸 寺 路	客	上 烟	小堂	
218	祭祀遺跡	客 戸 神 社	段 床	山 林	露出した9m×8mの岩盤 乙多田地区の 氏神	

### 大字坂本

219	城 燕 南 備 城 路	高 清	山 林・竹 林	200m×100m 郭 縱切	
-----	-------------	-----	---------	----------------	--

注意

本年度大学坂本は、昭和63年度調査の補足調査であったので、遺跡の概要については『三刀屋町の遺跡』Ⅱを参照のこと。

## 1. 遺跡の概況

遺跡の分布状況をみると、三刀屋川流域にやや密に分布するがほぼ鍋山全域で遺跡が存在する。ただ遺跡の性格からみると殿河内と乙加宮の三刀屋川流域では縄文土器、弥生土器、土師器が出土している。これに対して里坊、根波別所では古代の遺跡はほとんど知られていない。

## 2. 各地域の概況と主な遺跡の概説

### 大字里坊

押定寺山の北麓に位置し、小盆地となっている。遺跡は押定寺に関連すると思われるものが大半で、それにまつわる伝承等も残る。

#### 186高城城跡

小盆地の北側、ほぼ独立した丘陵上にある。径10mの主郭と長さ30mの第二郭からなる。南東麓には館跡と思われる郭がある。出雲の戸倉城からの伝令を押定寺へ伝えた伝承がある。また北西麓には段原という字名があり『雲陽誌』にある「権原、神門郡稗原戸倉の城攻の時、北原に軍勢たむろしたるといひつたふ」に比定できると思われる。



第1図 高城城跡見取図 (1:5,000)

### 187向屋敷跡

ほぼ独立した丘陵の頂上に100m×50mの主郭がある。稗原へ向かう往還が通る。



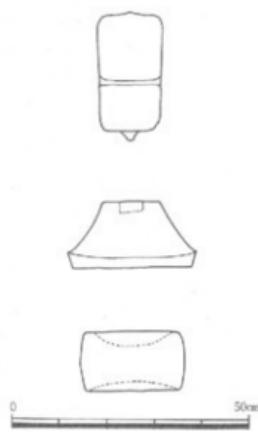
第2図 向屋敷跡 (1:5,000)

### 188松喰古墓群

高城城跡から北東へ約1kmの丘陵端に位置する。2基の五輪塔があるが、セット関係はない。埋没している石塔片からみると五輪塔5以上、宝篋印塔2以上あったと思われる。この付近は高城城の馬出しであった伝承があり、この古墓群は高城城に係わる古墓と思われる。同様に中古墓、家ノ脇古墓、若宮古墓も高城城に係わる古墓と思われる。

### 192法王寺仁王門跡

丘陵の西端に位置する。10m×12mの範囲に礎石が残る。南西約150mに位置する天台宗法王寺(稗原)の仁王門跡である。仁王門の建立時期や現在の位置に移転した時期は分からぬが1717年編纂の『雲陽誌』にはすでに



第3図 松喰古墓群五輪塔

「仁王門は往古は當山より一里半飯石郡の内三刀屋町にありたりなんといへとも今はなし」とある。

#### 大字根波別所

鍋山の西側の山間部に位置する。奈良時代までの遺跡は知られていないが茶臼山城跡には奈良時代見張台が置かれたという。遺跡は大きく山城関係と鉢関係とに分けられる。

#### 28茶臼山城跡

30m × 10m の主郭の縁を幅約1.5m の土塁が囲み、南東側に腰郭、さらに主郭をとりかこむように帯郭がある。南西側に郭2ある。

北東側は100m × 30m の大陥没地帯。北西側には長さ130m と30m の平坦面がある。『平田文書』によると奈良時代に見張りの砦が置かれ、中世には『鍋山村誌』によると伝えの城となり、城主朝原将監が立籠り大田原という、北西側の平坦面は武士の訓練場だったという。またこの平坦面の先には「刀とぎ池」と言われる小さな池がある。この他城跡の周辺には「弓場」「軍迫」「馬引田」などの地名がある。



第4図 茶臼山城跡見取図

#### 193赤目谷砦跡

出雲市との境界に近い南北に延びる丘陵上に位置する。郭7以上から形成されるが、簡単なつくりである。この砦の麓の東から南は、石見銀山に通じる往還がある。

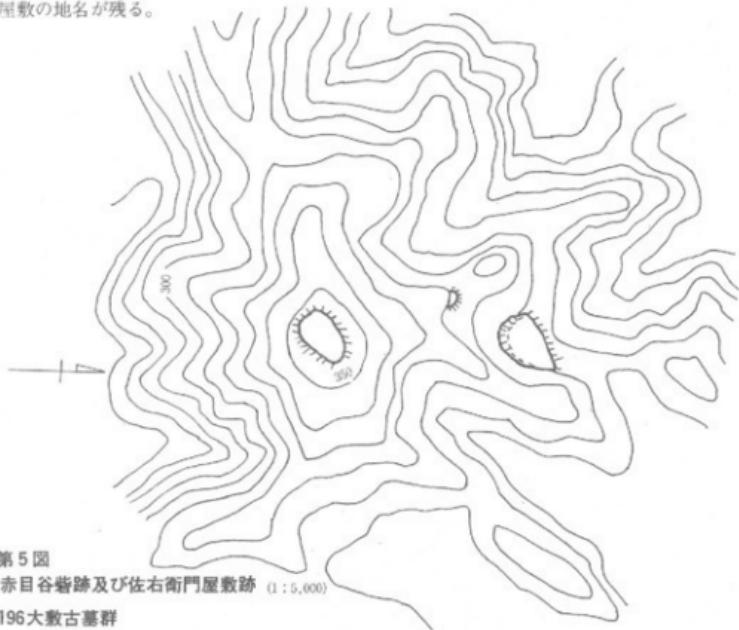
#### 194赤目谷砦跡

丘陵の頂部の50m × 40m の郭のみである。この砦の南麓には石見銀山へ通じる往還があ

る。砦の南東麓にある藤原家は約250年前、この往還の見張り役として現在地に来たという。

#### 195佐右衛門屋敷跡

赤目谷砦跡のある丘陵の北麓に位置する。50m × 30m の平坦面になっている。佐右衛門屋敷の地名が残る。



#### 196大敷古墓群

茶臼山城跡から西へ約0.5kmの独立に近い丘陵の南東麓に位置する。6.5m × 14m の平坦面に五輪塔片と宝鏡印塔片が多数埋没している。

#### 197道の上五輪塔

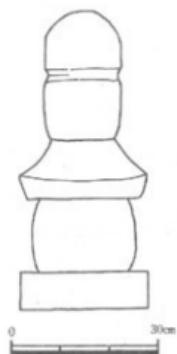
茶臼山城跡から南西へ約0.5kmの丘の頂部に位置する。五輪塔2ある。

#### 64恩後尻鉢跡

掛合町との境に近い深谷川の南岸に位置する。約50m × 20m の範囲に鉄滓が散布している。

#### 198金床鉢跡

奥赤目谷砦跡の北西麓に位置する。20m × 20m の範囲に鉄



第6図 道の上五輪塔

津が散布し、宅地の石垣の一部に却壁材が使用されている。

#### 199剣神社跡

後根波の小水田地帯に位置する。「大門」「馬場」の地名が残る。『雲陽誌』には「何神をまつるや傳記いまだ考す」とある。また『鍋山村誌』によると「明治24年に前根波の大井神社境内に合祀され、昭和9年後根波中央の頂上へ分靈勧請され、昭和25年には全社を後根波へ遷し今日に至っている。」

#### 大字殿河内

鍋山地区の北東側に位置する。ほぼ中央を三刀屋川が蛇行して流れている。三刀屋川が形成した河岸段丘上に繩文時代の石斧が出土した上殿河内遺跡がある。弥生時代の遺跡はまだ知られていない。

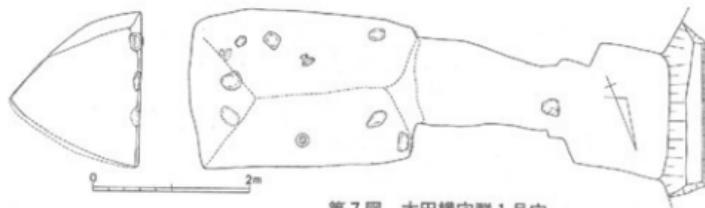
古墳時代遺跡としては鍋山地区で唯一の横穴墓として知られる太田横穴群がある。

奈良時代の遺跡はまだ知られていないが、殿河内遺跡では平安時代、中世の掘立建物を検出している。

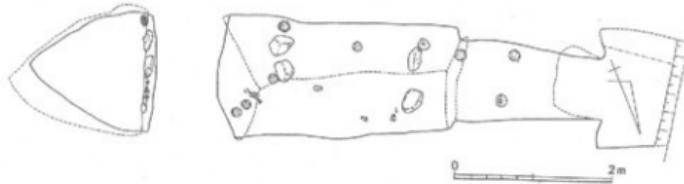
中世、殿河内は多種郷に属し、北側は三刀屋郷と南側は飯石郷と接しており、多種郷の守りの前線基地がおかれた伝承がある。また南の明石では領土争いが絶えなかったという。そして古刹禅定寺の勢力下にあるなど複雑な様相を呈していた。

#### 201太田横穴墓群

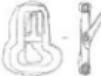
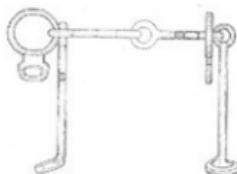
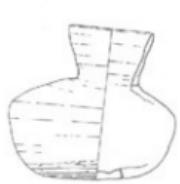
三刀屋川の右岸に位置する。1982年に発掘調査された。2穴あり、高壙、蓋壙、平壙、甕、鉄斧、刀子、馬具（くつわ、鉸具）、耳環が出土した。



第7図 太田横穴群1号穴



第8図 太田横穴群2号穴



第9図 太田横穴群出土遺物(1)

0 10cm

第10図 太田横穴群出土遺物(2)

0 10cm

## 25御城山城跡

南北に連続して延びる丘陵の北端に位置し、三刀屋川の右岸に張り出している。標高154m 比高約50m を測る。1986年の発掘調査での城跡関連の館跡と思われる建物跡が東麓から検出された。

## 95殿河内奥城跡

三刀屋川の支流、浜奥川の右岸の独立した丘陵上に位置し、川をはさんで押定寺山と対峙する。東西に狭い長さ約200m の範囲に尾根上に築かれている。南麓には押定寺と殿河内を結ぶ往還がある。



第11図 殿河内奥城見取図



第12図 御城山城跡測量図

### 202下殿河内城跡

三刀屋川の左岸、東西に連続する丘陵の西側の尾根上に築かれている。南側は三刀屋川をはさんで御城山城跡と対峙し、北麓には三刀屋へ向かう往還がある。



第13図 下殿河内城跡見取図 (1:5,000)

### 203大権山城跡

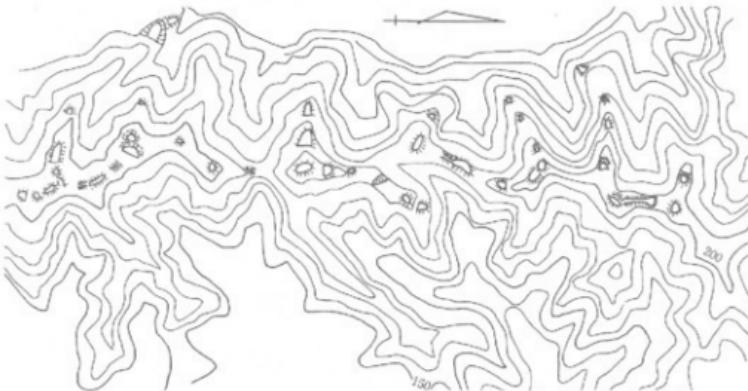
下殿河内城跡の立地し、東西に連続する丘陵の東側の尾根上に築かれている。主郭からは、東側に広がる三刀屋の町並が一望でき三刀屋尾崎城跡、三刀屋じゃ山城跡、峯寺を見通せる。『雲陽軍実記』には「義隆公父子は三刀屋地王峯の要害に御陣を居られ…(中略)…後陣は大権山、鍋山の山河に添ふて充満す」とある。



第14図 大櫃山城跡見取図

## 204高丸砦跡

御城山城跡から南へ連続して延びる幅のせまい丘陵上に立地する。東側には栗谷城跡、西側には方寺砦跡、陣高丸城跡がある。丘陵上には堀切道がいたるところでみられる。



第15図 高丸砦跡見取図

## 205方寺砦跡

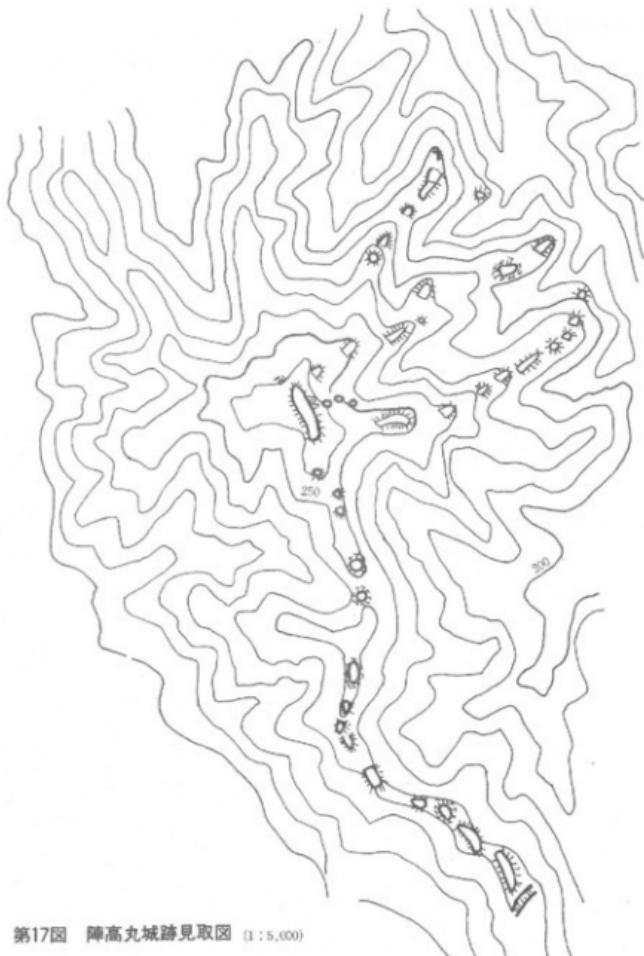
明石川と親谷川にはさまれ、南北に連続する丘陵上に立地する。同一丘陵の南側には陣高丸城跡がある。



第16図 方寺砦跡見取図

## 206陣高丸城跡

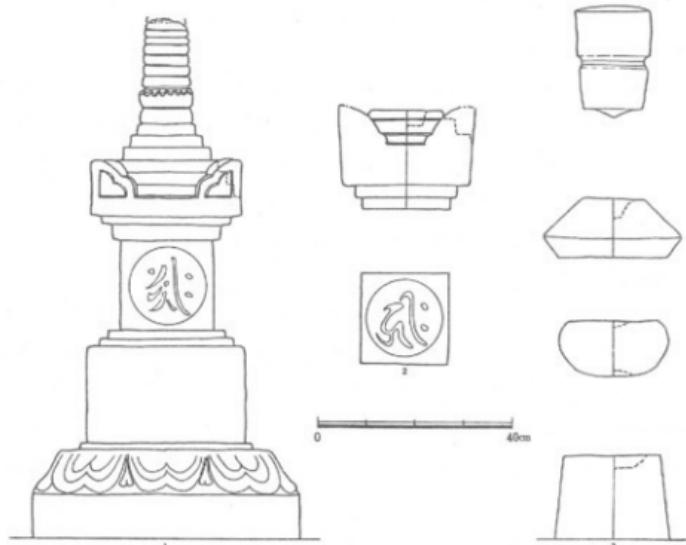
方寺砦跡から南へ約500m の丘陵上に立地する。地元には「陣高丸」周辺で軍がひんぱんにあった伝承がある。



第17図 陣高丸城跡見取図 (1:5,000)

## 97正福寺跡

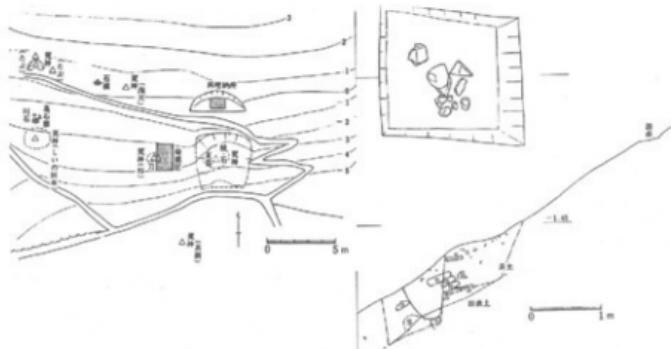
東西に長く伸びる丘陵から南へ張り出す尾根の東南麓に位置し、寺跡の南側は三刀屋川が形成した河岸段丘が広がる。伝承によると現在の正福寺跡の裏山に寺はあったが山くずれにより押し流され、現在の跡地に移ったという。また正福寺は禅定寺の末寺で庵寺であり、本尊は禅定寺に納めてある。寺跡の周辺には「蓮ヶ畠」「極楽」などの地名があり、五輪塔片、宝篋印塔片が多数散乱している。正福寺跡には、完形の宝篋印塔と五輪塔が遺存している。



第18図 正福寺跡石塔

#### 96清水荒神塚遺跡

正福寺跡から東へ約300mの、急峻な丘陵の南麓に位置する。埋納壙が2穴あった。鉄錠、刀、和鏡、土師質土器、円礎が出土している。付近には永昌寺跡や押定寺の東門があったといわれ、今は清水十王堂がある。



第19図 清水荒神塚遺跡実測図

#### 94殿河内遺跡

御城山城跡の東側、三刀屋川の形成する河岸段丘上に位置する。1985年に一部発掘調査され、平安時代の掘立建物跡3、中世の掘立建物跡1を検出した。遺物は土師器、須恵器、

陶磁器、土師質土器、鉄滓が出土した。

#### 大字乙加宮

三刀屋町の南西部に位置し東側を三刀屋川が蛇行して流れる。三刀屋川流域は河岸段丘が発達しており、南向の段丘には縄文早期の土器が出土した宮内遺跡、浜遺跡、横原遺跡が立地する。宮内遺跡と浜遺跡からは弥生土器、土師器、須恵器、土師質土器が出土している。中世以降の遺跡として城砦跡が9遺存するが、頂上のやや大きい主郭を中心にし尾根筋ややせ尾根に小さな郭を広範囲に配置するものが大半である。

#### 3 宮内遺跡

殿河内との境に近い三刀屋川左岸、宮内の集落の東側に位置する。1980年に行なわれた圃場整備の際、100m×350mの範囲から縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、土師質土器、瓦、石包丁、石鎌が出土している。

#### 5 横原遺跡

ほぼ乙加宮の中央、三刀屋川が形成した舌状の河岸段丘上に位置する。1980年の圃場整備の際、150m×100mの範囲から縄文土器と石器が出土している。

#### 62 浜遺跡

宮内遺跡の南西の浜奥川が形成した扇状地に位置する。1980年の圃場整備の際、125m×100mの範囲から縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、土師質土器、石斧、石鎌、石核、石包丁が出土している。

#### 4 平家城跡

乙加宮の西端の小丘陵上に位置する。丘陵の頂部に小さい郭が2ある。北麓には石見銀山へ通じる往還がある。「雲陽誌」には「平家城、城主しれず」とあり。「鍋山村誌」に「今平家山と呼ぶ、出雲精古知今圖説に曰く平賀山、天文の頃平賀太郎左衛門といふ人居たりと。」ある。

#### 27 大塚山城跡

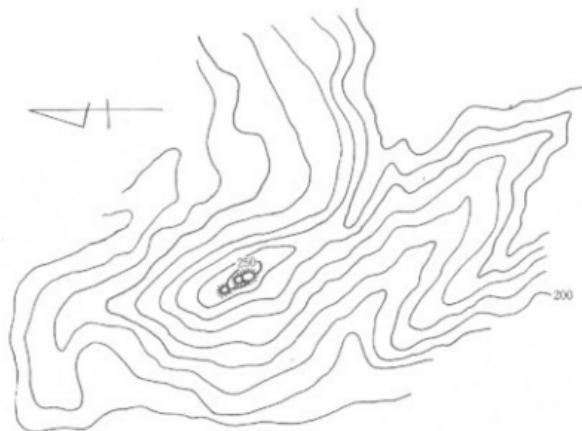
浜遺跡の北側の丘陵に位置する。地元には大塚土佐守の出城であった伝承がある。

#### 29 崇倉山城跡

平家城跡から北へ約2kmの丘陵に位置する。丘陵の頂部に約90m間隔をあけ郭を配置している。「雲陽誌」には「土入此山をとやか丸といふ、大塚土佐守という者の城なり、土佐守の傳いたま考す」とある。

#### 209 粟原城跡

三刀屋川と親谷川にかこまれた独立した丘陵上に位置する。山城の南東麓には「軍跡」という地名があり、戦いがここであった伝承がある。



第20図 平家城跡見取図 (1:5,000)

#### 210鳥目城跡

加食田と乙多田の境の東西に延びる丘陵上に位置する。この城跡の西側は南北に深い堀切があり往還となっていた。

#### 211上乙多田城跡

掛合町との境の東西に延びる丘陵の東端に位置し、三刀屋川に舌状に張り出す。地元には城跡である伝承がある。東麓には天文年間に大塚土佐守が勧請したという高畠神社や日倉城主多賀与四郎隆清が建立した龍光寺や円通寺の末寺である長勝寺がある。

#### 212休場砦跡

上乙多田城跡の東側、丘陵の先端に位置する。

#### 213長勝寺砦跡

長勝寺の南側、掛合町との境の丘陵上に位置し、狼煙をあげた伝承がある。

#### 214本谷城跡

上乙多田城跡や長勝寺砦跡が立地する丘陵の西端に位置する。頂部に設けた $50m \times 10m$ の主郭からは円通寺おしろ山城跡や禅定寺山を一望できる。

#### 70二つて鉄鉢跡

上乙多田の南部を流れる本谷川が形成した扇状地の奥の北側に位置する。近世末まで操業していた。

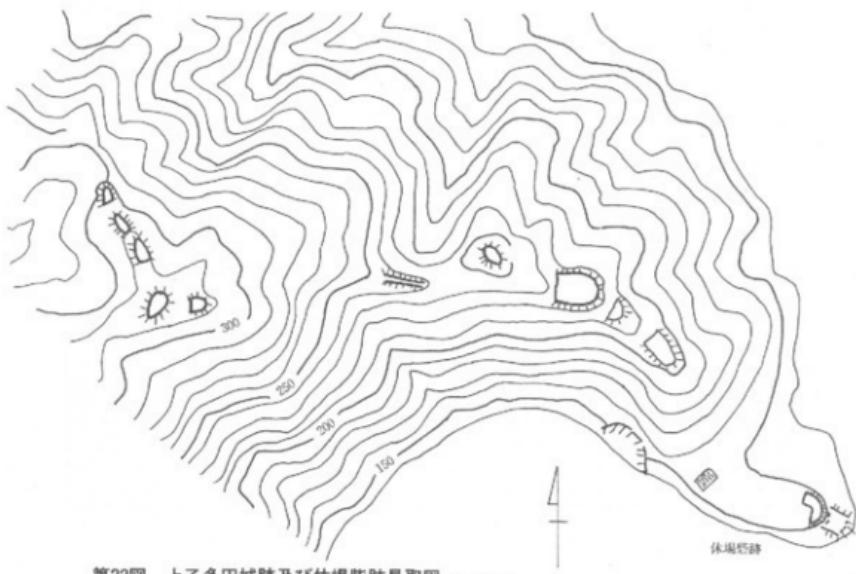
#### 216長勝寺跡

上乙多田城跡などが立地する掛合町境の丘陵の中腹に位置する。 $40m \times 29m$  の平坦面がある。現在三刀屋川左岸にある長勝寺が最初に建立されたところである。「寺床」の

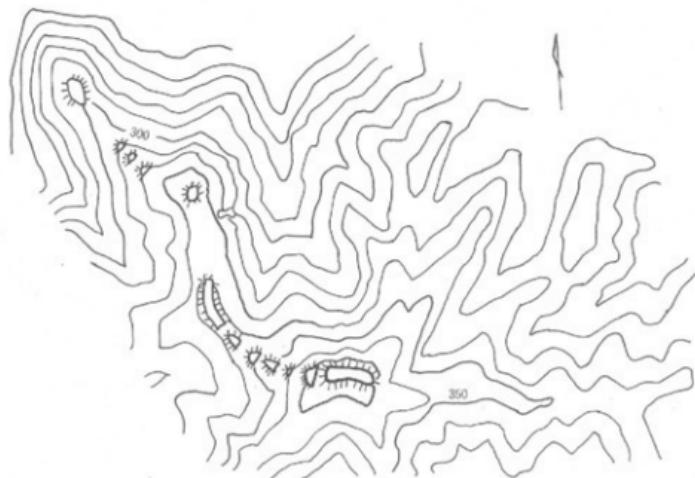


第21図 鳥目城跡見取図 (1:5,000)

地名が残る。ここから出土したと言われる鎧口が現在の長勝寺にある。



第22図 上乙多田城跡及び休場跡跡見取図 (1:5,000)



第23図 本谷城跡見取図 (1:5,000)

## 215寺屋敷遺跡

本谷川が形成した扇状地の奥、南側の丘陵先端部に位置する。33m×12mの平坦面があり、長勝寺の最初の移転地である。「寺屋敷」という屋号が残る。

鍋山地区遺跡数集計表

注( )内は既知の遺跡数

大字	散布地	古墳・横穴	城砦	古墓	製鉄遺跡	寺社跡	その他	計
里坊			2	4		1	1 (1)	8 (1)
根瀬別所			3 (1)	2	2 (1)	1	1	9 (2)
殿河内	1	1 (1)	7 (2)		1	3 (2)	3 (1)	16 (6)
乙加宮	3 (3)		9 (2)		3 (3)	3	1	19 (8)
坂本	1 (1)		1		2 (2)	3 (3)	1 (1)	8 (7)
計	5 (4)	1 (1)	22 (5)	6	8 (6)	11 (5)	7 (3)	60 (20)

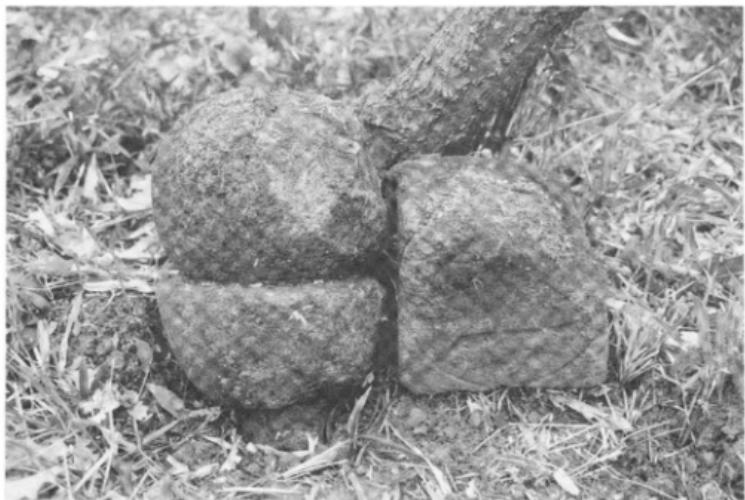


高城城跡



松陰古墓群

圖版 2



中古墓



法王寺仁王門跡



道の上古墓



恩後尻鉢跡



茶臼山城跡



奥赤目谷砦跡



陣高丸城跡



平家城跡



朝倉山城跡



御城山城跡



札場道尾跡



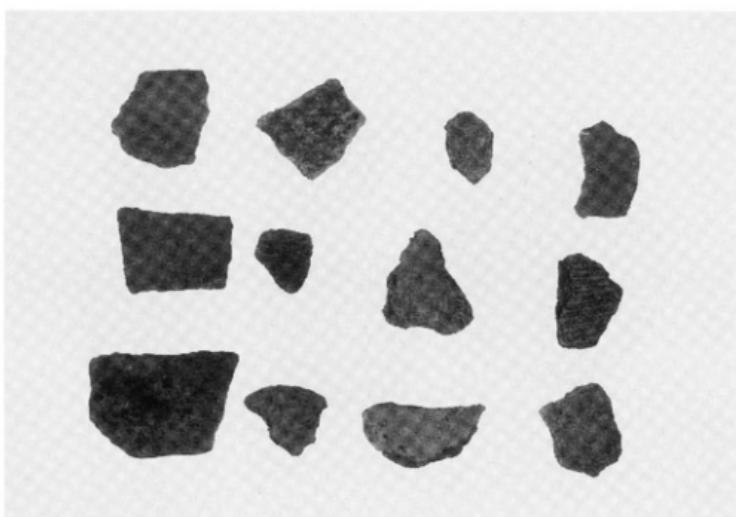
高丸砦跡



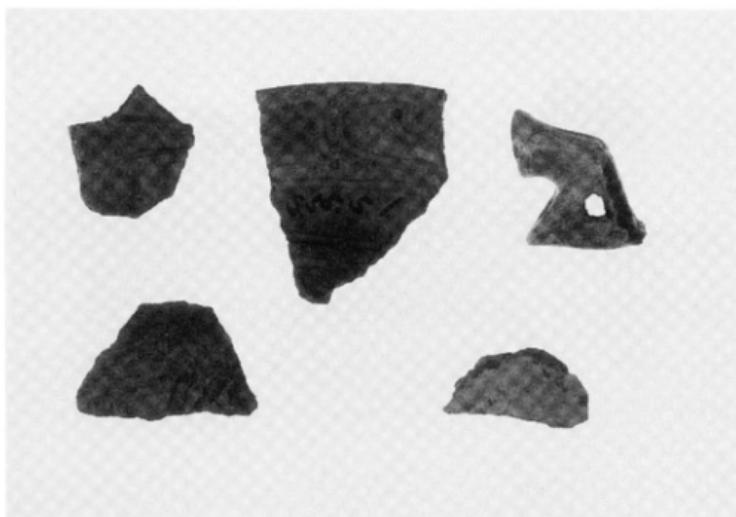
大檜山城跡より三刀屋町を望む



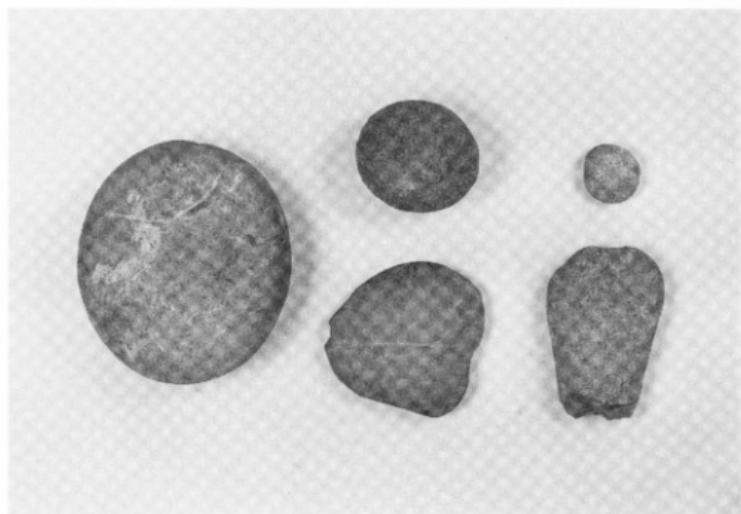
樺原遺跡



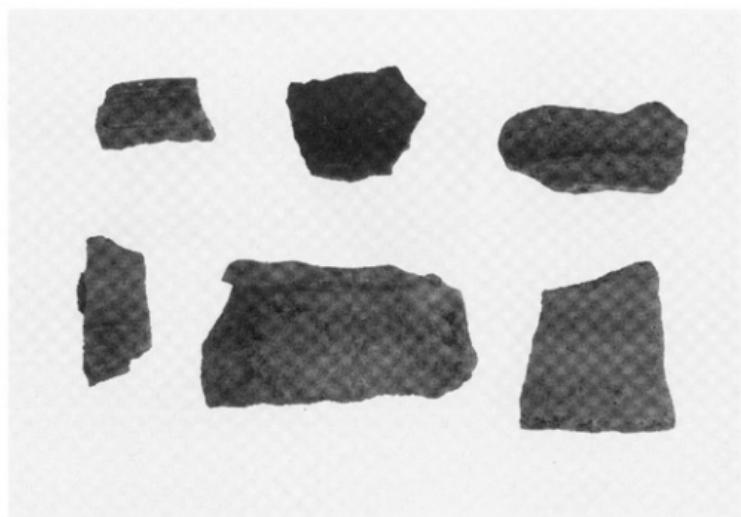
横原遺跡出土遺物 (1)



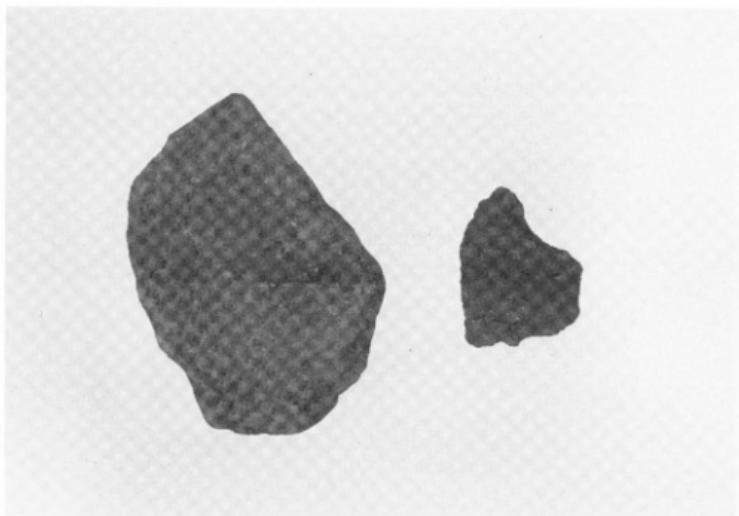
横原遺跡出土遺物 (2)



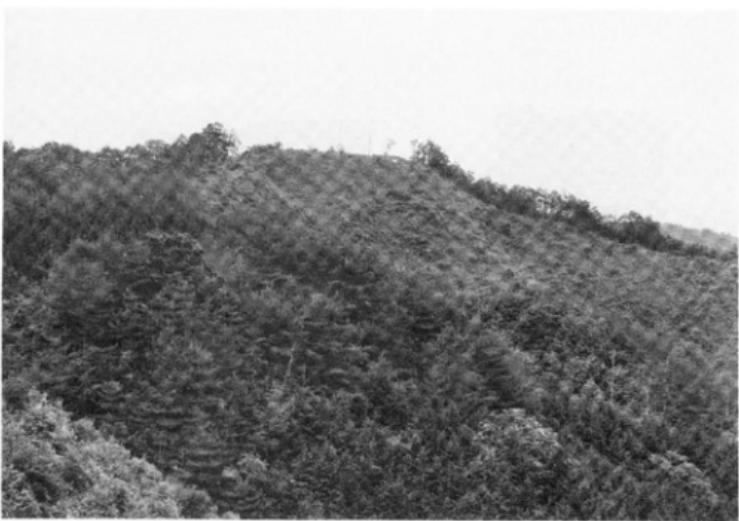
楨原遺跡出土遺物 (3)



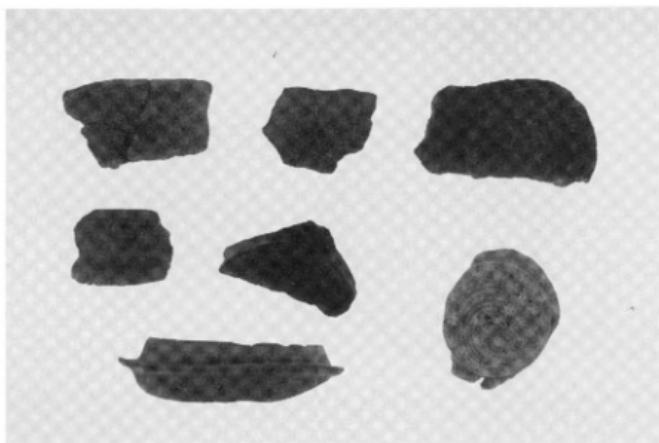
宮内遺跡出土遺物 (1)



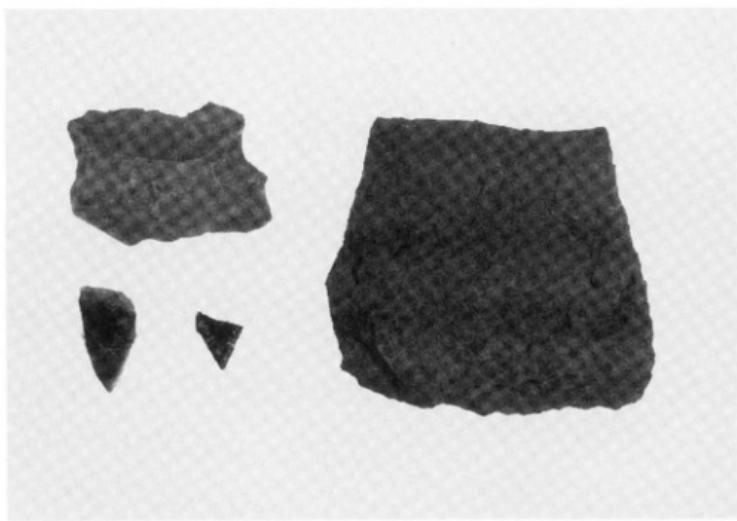
宮内遺跡出土遺物 (2)



本谷城跡



浜遺跡出土遺物(1)



浜遺跡出土遺物(2)



栗原城跡



鳥目城跡



上乙多田城跡



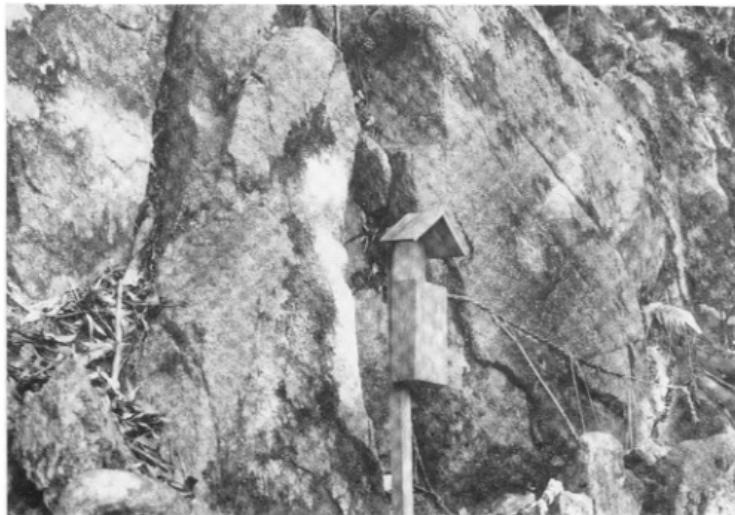
休場砦跡



浜遺跡出土遺物 (3)



こつて 鉄 鋤 跡



客土神社



南側城跡

詳細分布調査報告書

三刀屋町の遺跡Ⅲ  
—鍋山地区—

発行 1990年3月

三刀屋町教育委員会  
島根県飯石郡三刀屋町三刀屋944

印刷(有)木次印刷  
島根県飯石郡三刀屋町三刀屋

